

植物園とその周辺にみられるガンバイムシの仲間
 ガンバイムシ:カメムシ亜目、ガンバイムシ上科の昆虫。農業害虫として注目されることが多い。近年、
 複数の侵入種が大量に発生している。



http://www2.pf.x.northwestern.edu/~mml/bas1/grubai_01.html

ナンダンバイ

Stephanitis nashi

ナシ、リンゴ、スモモ、ウメ、サクラ、ボケ、カリナなどバラ科を利用。



<http://www.insect.jp/02r-jamaa/wedative/grm.htm>

アワダチノウダンバイ

Corythucha marmorata

平成11年に西宮市のセイタカアワダチノウで初確認された中南米原産の侵入種で、近畿圏の各地に分布を拡大中。キク、ヒマワリ、サツマイモなどを利用。



http://eye.lac.jp/02r-jamaa/wedative/grubai_01.html

ブラタナスダンバイ

Corythucha ciliata

2001年9月に愛知県名古屋市の港湾地域に植栽されていたブラタナスで初めて確認された。侵入種。街路樹のブラタナスで爆発的に増殖中。



http://kobe.fubul01.occe.or.jp/~sdyco/m/06/200109/pep11_06a1.html

ヘクノカスラダンバイ

Dulinius coruchatus

侵入種、ヘクノカスラを利用。

セミについての小話（今鳴いてる種類ではないですが・・・）

都市部の緑化がアブラゼミを追いやった？ 大阪市内でクマゼミ急増のナゾ

8月21日12時42分配信 産経新聞

大阪市内でアブラゼミが減り、クマゼミが増えたのは、都市部の緑化が原因。大阪市立環境科学研究所（同天王寺区）が、市内と郊外でアブラゼミとクマゼミの死骸（しがい）を調査し、アメリカ昆虫学会で論文を発表した。都市部の緑化によって野鳥が増えたことにより、鳥の捕食に対する回避行動が異なる2種のセミの個体数の割合が激変したという内容。これまでは、気温の上昇がクマゼミ増加の主原因と考えられていただけに、今回の論文に注目が集まりそうだ。

論文を発表したのは、環境科学研究所の研究者、高倉耕一さん（36）と山崎一夫さん（39）＝ともに生態学。

高倉さんらは大阪市内の公園4カ所と郊外の公園3カ所で、クマゼミとアブラゼミの成虫の死骸約3700匹を集めた上で、死亡要因などを分析。その結果、野鳥によって捕食された跡がある個体の割合は、郊外ではとも60～75%でほとんど違いがなかったが、市内では、クマゼミの捕食率が郊外とほぼ同率だったのに対し、アブラゼミは90～100%が鳥に食べられていたことが判明した。

また、2種のセミの死骸が落ちていた位置と樹木との距離の違いから、「捕食回避戦略」が異なることを発見。野鳥に襲われた場合、高い飛行能力を生かして遠くに逃げるクマゼミに対し、アブラゼミは近くの別の木に隠れる習性があることが分かったという。

高倉さんらはこれらのデータを踏まえ、「大阪市内などの都市部では緑地が回復傾向にあるため、飛来する野鳥が増えているが、郊外ほどは樹木が密集していない」とした上で、「周囲に障害物がいないため、クマゼミは速く飛び去ることができるが、アブラゼミは野鳥から身を隠し通すことができない」と結論づけた。